

図書館だより

Library News No.76

National Institute of Technology, Nara College

(Nara National College of Technology)

2019年2月 奈良工業高等専門学校図書館発行



表紙画像は、1C 竹中 実夢さん(左上)、1C 山口 叶夢さん(中央上)
1C 斉藤 みづほさん(右上)、1C 鎌田 めぐみさん(左下)
2E 池端 杏樹さん(中央下)、1E 宇原 歩夢さん(右下)

目 次

巻頭言	2
クラス・個人多読・メディアコンペティション表彰について	3
読書感想文コンクールを終えて	4
読書感想文入賞作品	6
学生図書委員会 活動報告ほか.....	12
メディアコンペティションプロジェクトの活動.....	15

巻 頭 言

本についての雑感

機械工学科 廣 和 樹

私がこれまでに読んできた本は、理工学関係のものや実用的なものがほとんどだったと思う。また、読みたいと思って購入したのはいいが、読まずにどこかに置いたままにしている本も数多くあり、それらのほとんどが理工学関係や実用的なものである。思えば、子供の頃から、活字よりも絵や写真が載っている図鑑などが好きだった。それが影響している。小学生の頃、誰かが「科学質問箱」という、ひみつシリーズの本を学校に持ってきて机の上に置き、その内容を語りはじめ、自分もワクワクしながら話していたことを思い出す。

ところで、理工学関係の専門書を読んでいると、その内容がわからないことがある。そのとき、人に聞くことができればそれでいいが、聞くことができない場合、インターネットで検索したり、他の専門書を読んだりして、理解に努めている。(演習問題の答えがわからず、日本語のどの専門書を見ても載っておらず、結局、洋書の中で似たような問題を見つけたことがある。) その結果、答えが得られるときもあれば、そうでないときもある。答えが得られないときは、なるべく、どこまでわかったか明確にし、記憶の片隅に残すようにしておく。(実は人に聞くときも、こうしておく方が相手にとっても自分にとっても効率がいい。) なお、専門書は、発行年が古く、何回も改訂されているものが多いと昔、教わった。実際、そのような本を読むと、詳しくてわかりやすいことが多い。ただ、そのような本は大体、分厚くて読むのに時間がかかる。一方で、要点が簡潔に書かれた本(図書館やインターネットの書評で調べられる)もあり、自分の目的に応じて使い分けている。なお、専門書などを読んでいると、必ずといっていいほど、数式が出てくる。そのため数学力は身に付けたいと今でも思っている。公式の暗記もいいが、教科書レベルでいいから導出の過程をきちんと理解しておくことも大切だと思う。

中学2年生か3年生の頃だったと思うが、友達の家遊びに行ったとき、彼のお母さんから「ぜひ読んでください。」と言われてもらった1冊の本があった。そのときは、読むタイミングを逸してしまい、何年かして、その本がふと目に留まり気になって読んだ。その本の内容は、戦争中の暗い時代に、人道的な勇気ある決断によって、多くのユダヤ難民を救った一人の日本人に関するものであった。時代の趨勢にただ流されるのではなく、自分の考えに基づいて行動する勇気の大切さを教えられた気がする。その「人類愛に生きた将軍」という本は、現在は廃版のため入手できないが、主人公に関する本はいくつか出版されている。

以上、本に関わることを書いたが、専門書の読み方などは人それぞれ考え方があってと思う。50歳を過ぎたが、子供の時に感じたあのワクワク感や、正義感は今後も失わずにいたい。

クラス・個人多読 メディアコンペティション表彰について

【クラス多読表彰】

クラス多読表彰は、図書館の統計に基づき、一人当たりの貸し出し冊数の多いクラスを表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰されたクラスには副賞として、希望図書の購入ができる権利を贈りました。



第1位	物質創成工学専攻2年	(28冊／人)
第2位	機械工学科4年	(27冊／人)
第3位	機械工学科5年	(20冊／人)
第4位	電子制御工学科5年	(18冊／人)
第5位	機械制御システムコース2年	(17冊／人)
第6位	物質化学工学科4年	(15冊／人)

【個人多読表彰】

個人多読表彰は、図書館の統計に基づき、貸し出し冊数が多い学生個人を表彰し、これを機に学生が一層図書館を活用することを期待するものです。なお、表彰された学生には副賞として、図書カードを贈りました。

第1位	物質化学工学科2年	赤木桃果さん	第6位	物質化学工学科3年	大西 夢さん
第2位	電子制御工学科5年	吉村勘太郎さん	第6位	電子制御工学科5年	ジエさん
第3位	情報工学科4年	石川 慎さん	第8位	電気工学科5年	滝川裕基さん
第4位	機械制御システムコース2年	水田航平さん	第9位	物質創成工学専攻2年	石川真平さん
第5位	機械工学科3年	橋口 司さん	第10位	機械工学科4年	池山 哲良さん

表彰式は1月7日（月）昼休みに校長室にて行われました（5ページの写真をご覧ください）

【メディアコンペティション表彰】

メディアコンペティションとは、高専祭で学生の自発的な取り組みの発表を行い、これを機に活発な活動をされることを期待するものです。参加した以下の3グループには副賞として、希望図書の購入ができる権利を贈りました。（15ページをご覧ください）

ロボコンプロジェクト

触れよう！バーチャルテキサン

プログラミングコンテスト「指示出す阿呆に動く阿呆、同じ阿呆なら……」



平成 30 年度

読書感想文コンクールを終えて

教育支援センター運営委員会

本コンクールは今年で第43回目となりました。1年生200編、2年生185編、3年生・4年生から各1編と合計387編の応募がありました。教育支援センター運営委員会の教員8名と国語科教員3名による審査・投票の結果、応募作品の中から次のように4名の入選作を決定しました。すでに1月7日の全校集会放送でもお知らせしましたが、以下にその学生の氏名と作品名を掲げ、栄誉を称えたいと思います。

また、惜しくも入選には至りませんでしたが、審査の過程で優れた評価を得て佳作となった作品についても、学生の氏名を紹介します。

最優秀賞

電子制御工学科2年 今岡 美杜 知能を求める心は何かを失うのか

優秀賞

物質化学工学科2年 埴淵 幸優 ゼロからトースターを作ることはできるのだろうか
物質化学工学科2年 広部 愛莉 「神の領域」迫るテクノロジー 「ゲノム編集の衝撃」を読んで
物質化学工学科1年 平野 彩 六年かけて感じた「モモ」

佳作

4 M 末永 共助	2 M 星田 大貴	2 M 松山 知央	2 M 山岡 智仁
2 E 樹下 倭奈乃	2 E 坂井 悠真	2 E 松本 仁	2 E 藪本 健成
2 S 村田 仁哉	2 S 森本 奏多	2 I 西城戸 星龍	2 I 山中 一輝
2 I 吉岡 春彦	2 C 島津 雄斗	2 C 東出 侑里	1 M 松本 尚樹
1 M 三浦 光	1 E 坂部 達哉	1 E 寶持 和馬	1 E 山口 奏人
1 S 久米 悠太	1 I 香月 あすか	1 I 島 千晴	1 I 徳持 進一

《最優秀賞について》

今年度の最優秀賞に選ばれた今岡さんの作品は、「アルジャーノンに花束を」を題材に、「知識を求める心が愛情を求める心を排除してしまうこと」を中心に書き進めています。ドラマや映画・舞台化もされているロングセラーですが、今岡さん自身が「洞察する機会をチャリイが私に与えてくれた」と記しているように、主人公チャリイに寄り添いつつも、冷静に自分なりの結論を模索しています。そして、知識と愛情のバランスが多少不十分であっても臆する必要はない、主人公の慈悲深さ・心を取り戻す姿からバッドエンドではない、と述べています。本文からの引用も効果的で、多くの審査員から評価されました。

《優秀賞について》

まず、2年生の作品は、2編とも期せずして科学的なドキュメンタリー作品を元にかかれたものでした。

学生の皆さんの身近でも、最近「遺伝子組み換えでない」という表示のある食品が必ずあるでしょう。広部さんはそのような身の回りのことや授業の動画をきっかけとし、自身の専門分野も関連づけて「ゲノム編集」という技術について考えました。惜しむらくは、若干結論を述べるのが早すぎた感があり、画期的な技術という側面

だけではなく、遺伝子を自由に操作するという、SFのような技術が現実のものとなり、人間、特に技術者がそれをどう使うのか、この本のタイトルが「衝撃」となっている意図についても考察があればよかったと思います。

「ゼロからトースターを作ってみた結果」(トーマス・トゥエイツ著)は、コンクールの「手引」に入っていた本です。タイトルからして魅力的な、そして内容も現代の大量生産・消費社会について考えさせるもので、何人かの学生が読んでいましたが、まずこの本に着目したという点も評価できます。そして、鉄の精錬の難しさやニッケルの採掘場が汚染されている現実などを述べ、消費者の立場からの反省、ハイテクノロジーに囲まれていながら実際は何も生産できない現代人に言及します。欲をいえば、将来の技術者としての視点からも、この本から考えたことを盛り込んでもらえば、さらに読み応えのある作品になったかもしれません。

1年で唯一優秀賞となった平野さんの作品は、ミヒャエル・エンデのロングセラー「モモ」を、タイトル通り小学校4年からの愛読書として再読した感想をまとめています。児童文学に分類されていますが、まさに「大人こそ読むべき作品」、子どもでも楽しめますが、成長するにつれていろいろな読み方ができる本です。本当に時間を「大切に」するとはどういうことか、小学生のときに思っていたことから現在の自分の考えに発展させており、評価できます。結論の「好きなように使う」ということについて、あと一步踏み込んだ展開があれば、さらによかったのではないのでしょうか。

《佳作・選外・そして全ての学生に……》

今回は最優秀賞・優秀賞の作品に高評価が集まり、他の候補作は水をあけられた感じで、佳作になったものが多かったようです。また、読まれた本として「火花」(又吉直樹著)や「君の膵臓をたべたい」、太宰の「人間失格」が目立ちました。「手引」にあった「君たちはどう生きるか」「三国志」も数人が読んでいます。「走れメロス」も何人かが読んでいましたが、これは「手引」の「新釈 走れメロス」(森見登美彦)の影響でしょうか。

特に今年の1年生は、国語の課題の感想として「本を読むのが難しい」と書いていた学生も多く、「本よりはケータイ・ネット」という学生も増えているように思います。IT機器は便利ですが、残念ながら、一度に表示できる情報は限られています。複数の本を同時に比較したり、長編の本やある程度の分量の文章を読んで、「論を立てる」「研究する」というときには、やはり紙媒体の方が優れていることも多いのです。少しずつでよいので、「ちょっと背伸びした」長めの文章や本を読む習慣を付けてください。そうすることで、読むことに慣れ、考えを深めることもだんだんと身についてきます。

また、句点「。」や読点「、」を行頭に書いているものがいくつかありました。原稿用紙の書き方は小学校で習っているはずですが、改行の際「。」や「、」が行頭にくるときは、前の行の末尾に書くことになっています。これもIT機器の影響かもしれませんが、気をつけてください。

さらに、残念ながら「テニヲハ」といわれる、助詞の間違いも目に付きました(「～を入学する」など)。内容では、何の本かわからない感想文や、最後に書名を記していないものも散見しました。「読み手」のことも考え、ある程度はあらすじなどの紹介もしてください。

苦言を呈しましたが、全体としては学生なりに努力をした作品が多くあり、引き続き来年度の応募に期待しています。

(国語科：鍵本)



読書感想文入賞作品

最優秀賞

『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス著

知能を求める心は何かを失うのか

電子制御工学科2年 今岡美杜

人間の根源的欲求を技術力で解決した時に人は何を不得何を失うのか。人間の在り方とは。

虚構ながらもそれを忘れるかのような壮大なスケールで描かれ、更にはバッドエンド。そのすべての場面において、人の心の裏側へ容赦なく切り込んでくる主人公チャーリーの魂の叫びに、心を強く揺さぶられる一冊である。

精神遅滞者であったチャーリーは近未来的脳外科手術を受け、天才と呼ばれる域に達する事となった。しかし、その喜びからほどなくして知的成長は感情的成長を追い越し、鋭利な知能が故、知識探究欲と自我のはざままで苦悩する日々を送るようになる。

そして、遂に知能と心の統制が取れなくなり印象的な言葉を残す。「知能は人間に与えられた最高の資質のひとつ。しかし知識を求める心が愛情を求める心を排除してしまう事があまりにも多い。」と。

私は、全編を通して、チャーリー的心情と共に過ごしてきたが、この状況にだけはすぐに賛同できず、どのように捉えたらよいのか分からなかった。人間は、知能を支えるだけの愛情を備えていないと暴力的思想となり、その姿勢が人を遠ざけ葛藤と孤独の中で模索することとなるのだろうか？

私は、チャーリーと自分の心にわずかな違いを覚えながら読み進める事となった。

そして、小説後半はチャーリーが自ら立てた仮説。「人為的に誘発された知能はその増大量に比例する速さで低下する」に沿うように、最大限に開花した知能は失われゆき、相反するかのように心を回復していく様は、春の小川のように穏やかでゆっくりと時間が流れていくようだった。

そして、その流れの行き着く先の答えは、チャーリーと同じく数奇な運命を辿った実験用マウス、アルジャーノンが持っていた。

私は思う。チャーリーが忘却の恐怖や苛立ちや自らの運命を含めた、あらゆる負の感情を昇華し、以前とはまた質の違う寛容さが生み出した圧倒的肯定力でアルジャーノンの最期に慈悲深さを見せ、心を取り戻す姿は、決してバッドエンドではなかったと。

そして、知能を求める事で人間性を失う事などないと再認識した。

本編で「愛情の裏付けがなければ知能は精神崩壊をもたらし、人間関係の排除へ向かい、暴力と苦痛にしか繋がらない。」とあるが、その結論は余りにも乱暴すぎるのではないかと考える。

勿論、心の豊かさの必要性を説きたいのは理解できる。

しかし、誰しもが知識と愛情をバランスよく持ち合わせている訳ではない。愛情が足りないからと言って探求心を忘れてはいけないし、その逆もまた然りだ。何かを与えてもらえなかった事を振り返るのではなく、自分で探しに行くべきだ。何も失うものなどない。

そしてそれが足りなかったとしても誰も傷つけなどしないのだ。

チャーリーと私の結論はわずかに違うのかもしれないが、重要なのは洞察する機会をチャーリーが私に与えてくれたことだ。

あとの宿題は著者が「教養は人と人の間に楔を打ち込む」と述べた言葉だ。補足する言葉がないので真意が分からずにいる。これはまた数年後この本を手にとった時に理解できるようになりたい。

その為にも、強く、強く人生を生き抜き、慈悲深く平和を願い続けたチャーリーに恥じない道を歩んでいきたい。

そしてアルジャーノンに花束を。

図書館の利用にあたっての注意

図書館の本は大切に扱きましょう

時々、付箋が付いたままだったり、中に書き込みがしてあったりする専門書が返却されます。誰か他の人が貸してくれた本に、付箋を付けたまま返しますか？中に書き込みをしますか？図書館の本は、あくまで借り物です。皆の本です。そのことを分かったうえで利用してください。

図書館では静かにしましょう

小声で勉強を教え合うのは構いませんが、時々大きな私語や笑い声が聞こえます。しばらく続くようであれば、注意に行きます。息抜きでちょっとお喋りしたい気持ちは分かります。でも、静かな館内に、貴方たちだけの声が響き渡っていませんか？貴方が一人で勉強している時、うるさくしている人たちに苛々したことはありませんか？一人一人が気を付けましょう。

返却期限を守ってください

期限内に読み切れなかった本（雑誌）は、他の人に予約されていなければ返却期限を延長することができます。手続きをせず、そのままズルズルと借り続けることはやめましょう。図書の延滞があると、新たな貸し出しはできません。



優秀賞

『ゼロからトースターを作ってみた』 トーマス・トウエイツ 著

ゼロからトースターを作ることにはできるだろうか

物質化学工学科2年 埴淵 幸優

ゼロからトースターを作ることにはできるだろうか。私も作者同様、最初は簡単に出来るものだと思っていた。電子レンジに比べ、トースターはニクロム線に電気を通すだけでいいからである。しかし、本を読み驚いた。身のまわりのいたるところにある鉄さえ簡単には精錬できなかったのだ。

この本の著者であるトーマスはトースターを作るにあたって、いくつかのルールを設けた。その中の一つに、産業革命以前に使われていたものと「基本的に変わらない」道具を使ってトースターを作る。というものがある。しかし、鉄を精錬する時点でそのルールを破ることになってしまった。鉄の精錬がどれだけ難しいか分かっていなかったのだ。しかし、消費者からすれば、それを知っている人の方が少ないのではないだろうか。知識として知っていても、実際には出来ないことは多い。しかし、私たちの身のまわりにある製品には多くの鉄が使われている。私は改めて家電製品等が高い技術力によって作られていたのだと気づかされた。トーマスはトースターを作るために約1187ポンド（約15万円）と9ヶ月を費やした。もし、身のまわりの製品すべてをゼロから作るとしたら、どれくらいの金と時間を使うのだろうか。それを考えると他人に依存して生きているということがよく分かった。

また、この本には原料の採掘場がいくつか紹介されていた。その中のノリリスクという採掘場は、土壤が汚染され周囲には木さえ生えないという。私は今まで安価な商品を見ても、定価に疑問を持ったことはなかった。しかし、そういう安価な商品に使われている材料はこのような環境に配慮しない採掘場で採られたものなのかもしれない。もちろん安価であるほど、消費者からすれば嬉しいし、企業もコストを削減しようとするだろう。しかし、環境に配慮しなければ、採掘場周辺で暮らす人々に迷惑がかかる。そのため、環境と経済のバランスをとる対策が必要だと思う。私も消費者側として、できるだけ長く使えるように、製品を大切に使い続けようと思う。

また、トーマスは石油の入手に困り、ごみを原材料として利用した。しかし、うまく再利用するには多くの材料が混ざりすぎているらしい。身のまわりには多くの原料からできている。これらの原料すべてを分別することは不可能だ。しかし、ペットボトルなどのように、簡単に分別できるものもある。これからの時代、資源が枯渇してくると思われている。その時のためにも、再利用についての認識が広がっていかなければ

ならないと思う。

私はこの本に色々なことを考えさせられた。特に衝撃的だったのは、凄い技術の中で暮らしているにもかかわらず、シンプルな構造であるトースターさえ作れないということだ。それも含め、この本で考えたことを今後に活かしていきたい。

『ゲノム編集の衝撃』 NHK「ゲノム編集」取材班 著

「神の領域」 迫るテクノロジー 「ゲノム編集の衝撃」を読んで

物質化学工学科 2年 広部 愛莉

私は、一年生の生物の授業でゲノム編集についての動画を見たことをきっかけにこの技術に興味を持つようになりました。以前から、お菓子の袋などに「遺伝子組み換えでない」という言葉が書かれており、この言葉の意味と必要性が分からずにいました。しかし、動画を視聴したことによって、遺伝子組み換え、または、ゲノム編集などの言葉の表す意味、そしてまだ安全性が示されていないなど世間からはまだまだ受け入れられていないということが分かりました。

まず、ゲノム編集とは遺伝情報を高精度に改変できる技術で、ゲノムDNAを切断する酵素である人工ヌクレアーゼなどを用い、遺伝子・配列を標的にし、狙った箇所の生物遺伝子を壊したり、置き換えたりすることです。病気のモデルとなる実験用動物の作成、難病の治療や予防法の開発、農作物や家畜などの品種改良、バイオ燃料の生産に適した植物の開発などに幅広く用いられています。

私はこの本を読んで深く印象に残っていることがあります。一つ目は食料に関してです。今、世界の人口は七十億人程度ですが、アフリカ大陸を中心に人口爆発が起こっていることからこれから人口はどんどん増えていくと考えられます。すると、世界人口に対しての食料が足りなくなり、今まで以上に飢えに苦しむ人が増えてしまいます。こんな時に食料にゲノム編集を施すと肉付きのよい肉や魚をつくれたり、厳しい環境の元でもたくさんの作物をつくるのが可能になります。そうすると、世界の食料問題も少しは解決につながるのではないのでしょうか。

二つ目は難病の治療についてです。難病には特効薬がなく、検査の数値を抑える薬、痛みを和らげる薬といったように死ぬまでの時間を少しだけのばすようなものだと思っていました。しかし、病気にもゲノム編集を行うと病気に侵されてしまった細胞を入れ換えていくので、難病を治すことも可能になるはずです。

みなさんはゲノム編集に対してどのような意見を持っていますか。私は、画期的なアイデアで日本だけでなく世界も明るくする素敵な技術だと思っています。しかし、中には遺伝子を変化させた生物を食べることに大きな抵抗を感じる人も多いと思います。でも、ゲノム編集は、遺伝子組み換え技術と違い他の遺伝子を入れ換えるということをしていません。例えば、肉付きのよい肉や魚を作るために手を加えるのはミオスタチンという、動物の中に存在する遺伝子の働きを一つ抑えるということだけで、これは自然界でも突然変異としてよくあることです。これらのことを消費者に十分に説明し、"どのような条件をクリアすれば安全な食品とみなせるか"という基準づくりをしていけば理解の輪は広がっていくのではないのでしょうか。

ゲノム編集とは、世界の問題を解決することが可能になるというよい側面がありますが、生態系を崩してしまうなど取り返しがつかなくなってしまう悪い側面もあります。

私は将来、ゲノム編集に関係する仕事に就きたいと思っています。もしその夢が叶ったなら目の前のことだけでなく広く物事を考え、この社会が少しでも明るくなれるような研究をしていきたいと思っています。

『モモ』 ミヒャエル・エンデ 著

6年かけて感じた「モモ」

物質化学工学科1年 平野 彩

小学4年生の時、私は「モモ」の世界観が大好きでお気に入りの本でした。16歳になった夏休みに、たまたま本棚でこの本が目にとまりまた読みたくなったので、ページをめくっていくと夢中になってしまい気がつくまで最後まで読んでいました。

「モモ」は、町外れの円形劇場跡に迷い込んだ少女モモが色々な場所に旅をしてたくさんの人と出会ったり「時間どろぼう」と戦ったりしていきます。この本を読んで一番最初に感じたことは、大人こそ読むべき作品だということです。私は、小さい頃に読んでいた時には感じなかったことを感じました。

その中でも心に残ったのは、

そこでせかせかと働きます。どんどんスピードをあげてゆく。ときどき目をあげて見るんだが、いつ見てものこりの道路はちっともへっていない。

だからすごいきおいで働きまくる。心配でたまらないんだ。そしてしまいには息がきれて、動けなくなってしまう。道路はまだ残っているのにな。

という文章です。小さい頃、よく計画を立てて物事をやりなさいと言われてきました。しかし、大人になって

いくにつれて将来のことばかり考え過ぎて不安になり心が疲れてしまうということが多くなると思います。私自身も、受験の時も今でさえも不安だらけで考え過ぎてしまうことがあります。しかし、そういう心に余裕がない時こそ今できることを一生懸命にやり、後のことを考えずがむしゃらに楽しんでやろうと思いました。そうすれば、いつの間にか達成して、大切なことを見つけることができているかもしれません。また、

ふたりはなんどもだきあい、そばをとおりかかった人びとも立ちどまって、いっしょに泣き笑い、よろこびを分かちあいました。いまではだれにもじゅうぶんにその時間があるからです。

という文章からもわかるように時間を好きなことにたっぷり使えるということは、自分自身が生きている証だと思います。

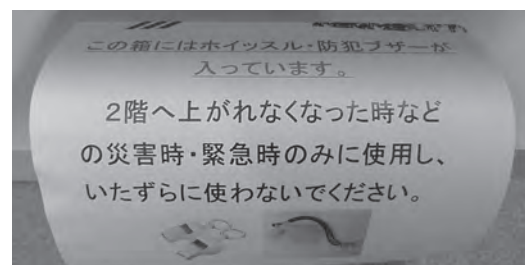
小学生の時に、お金で買えないものは、「命」と「人の心」と「時間」と先生から教わりました。その時は、時間は有限だから大切に使うという意味でしか捉えていませんでしたが、「時間どろぼう」によって時間が盗まれた人々は考える時間も節約してしまい心も奪われてしまいました。時間を有効活用することは大切ですが、それにとらわれすぎて人が時間に支配されていることはないでしょうか。それは、本当の意味で生きていると言えるのでしょうか。時間とは、生まれた時から自分自身で自由に使うことができる一つの財産です。そしてその財産を、自分の好きなように使うことによってはじめて本当の意味で生きていると言えると思いました。

このように、小学生の時、時間はただ大切に使うべきものだと感じていたけれど、6年経った今はその使い方は自分自身で好きなように使う自由と責任があると感じました。私自身も好きなことができる時間があるからこそ、6年間でたくさんのことを学び経験したうえでこの本をもう一度読んで違う感じ方ができました。これから大変なことがいっぱいあるかもしれないけど、一つ一つ焦らず自分なりにやっていこうと思います。

図書館の防犯・防災対策

図書館では防犯・防災対策に取り組んでいます。地震などで1階から2階へ上がれなくなった時などのために、1階の雑誌コーナー前の消しゴムの消し屑を吸い取るクリーナーが置いてある机に、ホイッスルと防犯ブザーが入った箱があります。また1階と2階に、コンセントに差し込んで停電時には懐中電灯にもなるLEDライトを設置しています。

貼り紙もしていますが、図書館でいる時に地震が起きたら、本棚からすぐに離れるようにしてください。



学生図書委員会 活動報告ほか

図書委員会の1年を振り返って

3S 田中 智大

今年度図書委員長を務めさせていただきました3年電子制御工学科の田中です。今回の執筆にあたって報告と振り返りをしたいと思います。

今年度はブックハンティング、広報、雑誌入れ替え、メディアコンペティション、読書週間プロジェクトに加えて福袋プロジェクトを行いました。

今年度は読書案内100選の改定を行いました。みなさんは読書案内100選の存在を知っていたでしょうか？（私は知りませんでした…）読書案内100選は1981年（昭和56年）に必読図書100選として制定され、1994年（平成6年）に現在の読書案内100選に名称変更され、同時に一部が改定されました。しかしながら、入手困難になってきた本などが出てきたため来年5月より新元号となる節目の年に読書案内100選の改定を行うことにしました。難しい本もありますが、中には読みやすい本もありますので、24年ぶりに新しくなった読書案内100選に皆さんもチャレンジしてみてはいかがでしょうか？（この図書館だよりが発行されているところには名称が変わっているかもしれませんが。）去年より行われた福袋企画ですが、去年は全て図書館で行っていました。そこで、福袋プロジェクトでは昨年度では図書館に丸投げしていたラッピングや図書の選定などを図書委員で行い、図書委員が主体となって福袋プロジェクトを行います。作業にかかわる人数も増えますので、学生の想像力を反映させることができればと思います。去年より始めた図書委員公式Twitterは皆さんが親しみやすいようになると柔軟な感じで運用をしてみたいつもりです。これからは奈良高専の図書館について知っていただくためにより効果的な運用について模索していけたらと思います。今年のブックハンティングも例年同様に各クラスで希望があった図書だけでなく図書委員がオススメする本も購入し、一部を読書週間として展示を行いました。

この1年間で私は連絡の仕方から学生会への予算の請求など、様々なことを学ぶことが出来て実りのある1年となりました。図書委員2年目で非常に頼りなかったかもしれませんが、副委員長や前委員長をはじめとする委員のみなさんの支えのおかげで、なんとか1年間図書委員長としての役割を全うすることができたかと思います。

最後になりましたが、今年度の図書委員会を担当してくださった松井真希子先生、そして図書館の植山様、柳林様に感謝申し上げます。

近頃世間では、活字離れが進んでいると騒がれています。スマートフォンの普及で、小説の電子化が進んだことも少なからず関係しているのでしょう。さて、皆さんはどのようなジャンルの本を読まれるのでしょうか。私は小説を読むことが多いのですが、読み始めるとなかなかやめられず、何か用事を頼まれても立ち上がることができないことがよくあります。おかげで親に小言を言われたことも多々ありますが、性分というものはなかなか変わらないもので、すぐにまた本の世界に戻ってしまうのです。その後何が起こるかは想像に難くないと思いますが…。

周知の通り、図書館にはたくさん本があります。そしてそこには歴史書、専門書、そして小説などの形で様々な歴史や知恵、物語が隠れているのです。人間の創り出した知恵や物語は、難しいものも沢山ありますがどれも素晴らしいものだと思っています。普段なかなか図書館に行く気が起きないという方も、ほんの10分程度足を運んでみるのはいかがでしょうか。そして少しでも気になった本が見つければ、とりあえず手にとってみることをお勧めします。もしもその本が気に入ったなら、ぜひ借りて、家で紅茶を片手にゆっくりと読んでみるのもいいでしょう。最後は私がしてみたいことなのですが。

ではここで、私のお勧めする小説、上橋菜穂子さん著の「獣の奏者」をご紹介します。

女性の王、「真王（ヨジェ）」が治める地域と、男性の統治者である「大公（アルハン）」が支配する地域の二つに分かれた王国が舞台となる物語。そしてこの世界には「王獣」と「闘蛇」という二種類の獣がいた。大公領で生まれ育った主人公の少女エリンは、闘蛇の飼育係である母親が処刑されたことで、蜂飼いの男性に育てられることになる。その後エリンは王獣を飼育する学校に入学し、獣と心を通わせようとする。そして、母親の死に闘蛇の飼育に関するある秘密が隠されていることに気づいたエリンは、昔からの戒めを破り、獣の秘密に近づこうとするのだった。

…続きが気になりますか？もしこれを見て少しでも「獣の奏者」に興味をもっていただけた方はぜひ図書館で借りてみて下さい。

さて、ここまでのオチ、というわけではないのですが、私は小説とは特に関係のない「雑誌入れ替えプロジェクト」のリーダーとして活動させていただいています。年に一度、学生の皆さんから新しく図書館に入れたい雑誌のアンケートを実施していますので、ぜひそちらもよろしくお願いしますね。

ここまで読んでいただけた皆さん、ありがとうございました。

広報プロジェクトの紹介

4C 小野 初

皆さんこんにちは。今年は広報プロジェクトリーダーを務めさせていただきました、物質化学工学科4年の小野です。今回は、この図書館だよりのスペースを使って、広報プロジェクトがこの1年間で、どんなことをしてきたのかを紹介したいと思います。

広報プロジェクトは、主に図書館だよりを作るときに中心となって活動したり、活動中の様子を撮影したりするプロジェクトです。例えば、CAMPUSの“私たち、ブックハンティングでこの本を買いました！”のページを作るために撮影・編集しているのも実は僕たち広報プロジェクトです。これらは例年通り行ってきた活動ですが、今年からは、もっと広報らしい活動もしたいと思い、新しく

Twitter (ID:@nitnctoshiin URL: <https://twitter.com/nitnctoshiin?lang=ja>)

を用いた広報活動も行うようになりました。このアカウントは前年度の委員長が、図書委員からの連絡をするために、非公式で作ってくれていたものなのですが、これを広報プロジェクトが正式に引き継ぎ運用するようになりました。今までは図書委員に対する連絡が主な内容でしたが、これからは学生さんへ向けた告知などを増やしていく予定です。例としては、ブックハンティングで購入した本が書架へ追加されたとき、各種催し（雑誌入れ替えアンケート・福袋企画）などの案内などがあります。図書館に関する情報が一目でわかるはずなので、Twitterをやっている学生さんは是非フォローしてみてください！あと、CAMPUSの“私たち、ブックハンティングでこの本を買いました！”のページの編集もしています。

主な活動は上記のような内容になります。図書委員の広報として、もっとこうすればいいのでは？などの意見・アドバイスがある人は、来年度から図書委員になって広報プロジェクトに入ってもらってもいいし、Twitterでリプライを飛ばしてもらっても構いません。実際に図書館を利用する学生さんからの新鮮な意見・感想などお待ちしております。

図書館ではさまざまな展示をおこなっています。

図書館では、学生図書委員会による読書週間展示のほかに、テーマを決めて展示をおこなっています。平成30年秋にはその時公開中だった映画の原作（「旅猫レポート」や「億男」など）を展示し、TOEICおすすめ問題集の展示本は5冊すべてが貸出されました。

今後も「なつかしいあの頃70年代・80年代のお話」「新社会人応援企画！就職・仕事に関する本」の展示を予定しておりますので楽しみに！

メディアコンペティションプロジェクトの活動

3I 渡邊 加菜

本年度のメディアコンペティションプロジェクトリーダーを務めさせていただきました、わたなべと申します。

初めにメディアコンペティションについての概要からお話しします。

メディアコンペティションとは、学生チャレンジプロジェクトやロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどの学生が主体となっている団体の活動内容の発表をサポートする団体です。

主な活動時期は夏休み終了後から高専祭終了までの非常に短い期間です。その時期しか活動しないというもあり期間中は非常にあわただしく、いつの間にか高専祭が終わっている、などということが起こります。

本年度の活動は、例年通り高専祭での各団体の展示場所の提供、発表のサポートなどをさせていただきました。

本年度の参加団体は学生チャレンジプロジェクトから「触れよう！バーチャルテキサン!」、他にロボットコンテスト、プログラミングコンテストから各1団体の計3団体です。

展示内容は各団体の活動内容をパネルとして展示、それぞれの代表者がパネルについての説明をしていくという形式で行わせていただきました。

また、参加団体が例年よりも少ない中、例年より多くの方に足を運んでいただき非常に喜ばしく感じました。中でもロボットコンテストは知名度も高く、実際にコンテストに出場していたロボットの実演をしていただけたので数多くの来場者に喜んでいただき、その結果として他2団体の活動報告も多くの方に見ていただけ、とても良い結果となりました。

本年度の活動報告については以上です。

来年度以降、当プロジェクトがもし残るのであれば、プロジェクトを引き継ぐ後輩が来年度以降もさらにより良いものを目指していただけることを祈ります。

また、他のプロジェクトに比べ参加人数が少ない中、頼りのないリーダーで委員の皆様にはご迷惑をおかけしたとともに、非常に助けられました。この場をお借りして一言お礼申し上げます。

ありがとうございました。

図書福袋の中身公開します！

図書福袋とは、貸出上限冊数（学生・教職員6冊、一般3冊）とは別に袋入りの2冊の本を借りることができる期間限定・数量限定の企画です。中身を選定したのは図書委員と教職員で、華やかな飾り付けをし、中身のヒントとなるようなメッセージカード付きで貸し出されました。その中身を公開します。



	資料番号	書名	著者
①	0104573	勝手にふるえてろ	綿矢 りさ
	0108007	ひらいて	綿矢 りさ
②	0102775	メイン・ディッシュ	北森 鴻
	0113766	鉄緑会基礎力完成数学1・A+2・B	東京大学受験指導専門塾
③	0103388	神様のカルテ 1	夏川 草介
	0103721	神様のカルテ 2	夏川 草介
④	0064232	日本民話選	木下 順二
	0064233	古事記物語	福永 武彦
⑤	0106501	化物語 上	西尾 維新
	0106543	化物語 下	西尾 維新
⑥	0110168	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野 圭吾
	0093738	容疑者 X の献身	東野 圭吾
⑦	0107032	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸 潤
	0103251	No.6(ナンバーシックス)	あさのあつこ
⑧	0116132	雪煙チェイス	東野 圭吾
	0116203	ぼくを探しに	Silverstein Shel
⑨	0107289	夜空を歩く本	林 完次
	0085775	オーロラの彼方へ	星野 道夫
⑩	0114476	筋トレが最強のソリューションである	Testosterone
	0103739	eco テクノロジーへの挑戦	鈴木 孝幸
⑪	0101781	f 植物園の巣穴	梨木 香歩
	0074624	宙ノ名前	林 完次
⑫	0110738	雨の降る日は学校に行かない	相沢 沙呼
	0114507	小説の神様	相沢 沙呼
⑬	0078037	まる子だった	さくらももこ
	0079277	ももこの話	さくらももこ
⑭	0108340	何者	朝井 リョウ
	0108462	少女は卒業しない	朝井 リョウ
⑮	0098454	凛とした「女性の基礎力」	坂東 真理子
	0106158	美人の古典	山下 景子
⑯	0116758	ファッションで社会学する	藤田 結子
	0113828	東京大学「80年代地下文化論」講義	宮沢 章夫
⑰	0112429	アリス殺し	小林 泰三
	0115135	クララ殺し	小林 泰三

	資料番号	書名	著者
⑱	0109855	十角館の殺人	綾辻 行人
	0087390	時計館の殺人	綾辻 行人
⑲	0111036	20代のための「キャリア」と「仕事」入門	塩野 誠
	0097515	働く理由 99の名言に学ぶシゴト論	戸田 智弘
⑳	0089761	100万回の言い訳	唯川 恵
	0107102	ロミオとジュリエット	Shakespeare William
㉑	0027310	妖精の涙	三木 澄子
	0100963	ジョーカー・ゲーム	柳 広司
㉒	0105932	またまたへんないきもの	早川 いくを
	0110311	わたしはマララ	Yousafzai Malala
㉓	0058960	銀河鉄道の夜：童話集：他十四篇	宮沢 賢治
	0115569	価値がわかる宝石図鑑	諏訪 恭一
㉔	0107828	日本語が見えると英語も見える：新英語教育論	荒木 博之
	0105150	日本語教室	井上 ひさし
㉕	0076286	村上春樹、河合隼雄に会いに行く	河合 隼雄
	0073645	カウンセリングを考える	河合 隼雄
㉖	0114690	なるほどデザイン：目で見ても楽しむデザインの本。	筒井 美希
	0111021	日本の伝統色を愉しむ：季節の彩りを暮らしに	長澤 陽子
㉗	0113009	花とアリス殺人事件 = the case of hana & alice	乙一
	0090698	博士の愛した数式	小川 洋子
㉘	0067683	日本コンピュータの黎明：富士通・池田敏雄の生と死	田原 総一郎
	0074054	誰がどうやってコンピュータを創ったのか？	星野 力
㉙	0066103	新聞の読みかた	岸本 重陳
	0114512	わかりやすく「伝える」技術	池上 彰
㉚	0104472	なぜ日本人は学ばなくなったのか	斉藤 孝
	0109933	ヘッセの読書術	Hesse Hermann

編集後記

図書館だより 76号に記事をご寄稿頂きましてありがとうございました。組織が大きく再編されて1年が経とうとしています。ついに図書館の改修工事も決まりました。改修中ご不便をおかけすることになりますが宜しくお願い致します。新しく生まれ変わる図書館をお楽しみに！
(図書館)



奈良高専
National Institute of Technology, Nara College

奈良工業高等専門学校 図書館

〒639-1080 大和郡山市矢田町 22
TEL 0743-55-6015
URL <https://www.nara-k.ac.jp/nncet-library/>

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。